

投資の基礎講座 「今が投資のチャンス？」

CFP®認定者
日本FP協会群馬支部副支部長 大谷 明

株式相場が大きく値下がりしていることが報道され、株だけではなく、株式投資信託への投資を躊躇する人が多くなる傾向があります。また、金利上昇や円高で外国債券に投資する投資信託もやや人気が薄れてきました。

投資信託などの投資商品は長期的な視野に立って投資すべきものですが、それでも「安い時に買って高いときに売る」ことができればより大きな収益が得られることになります。しかし、一般には上記のような行動をとる人が多く、株価が下がってくると株式や株式投信の購入を手控え、円高や債券安で外国債券投信の基準価額が下がるとそれらの投信の人気が落ちてしまい、収益の機会を逃してしまいやすいものです。

「人の行く裏に道あり花の山」という相場の格言もあります。株価が下がっているとき、円高のとき、金利が上昇して債券の値段が下がっているとき、そんな時こそ自分自身でよいと思える銘柄や投資信託を購入するチャンスであるはずですが、もちろん「今が底」なのかどうかは、「神のみぞ知る」わけですが、投資商品への投資を検討する機会と捉え、研究してみたいはいかがでしょうか。

先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	15,915.68円	15,915.68円	15,467.33円	15,789.31円
TOPIX	1,616.17	1,616.17	1,579.94	1,606.11
東証1部単純平均	500.34円	500.34円	481.46円	484.77円
東証1部売買高	1,550,794千株	2,404,032千株	1,415,526千株	2,404,032千株
ニューヨークダウ平均	11,094.43ドル	11,260.28ドル	11,094.43ドル	11,247.87ドル
NASDAQ	2,164.74	2,339.02	2,164.74	2,219.41
10年国債利回り	1.865%	1.945%	1.830%	1.905%
債券先物中心限月	133.34円	133.66円	132.72円	133.03円
無担保コールO/N	0.071%	0.071%	0.013%	0.013%
円TIBOR 1ヶ月	0.13364%	0.15091%	0.13364%	0.15091%
円TIBOR 3ヶ月	0.25182%	0.28364%	0.25182%	0.28364%
ドル/円相場	112.30円	112.81円	111.66円	112.81円
ユーロ/円相場	143.22円	144.48円	143.22円	144.48円
1ユーロ=ドル	1.2753ドル	1.2873ドル	1.2753ドル	1.2805ドル
米国FFレート	5.0000%	5.0625%	5.0000%	5.0000%
米国10年国債利回り	5.08%	5.12%	4.99%	4.99%

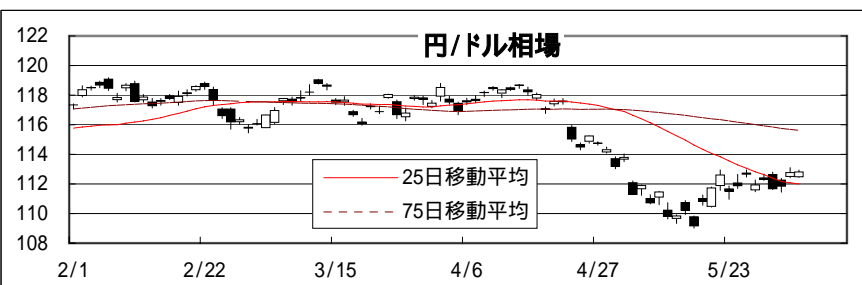
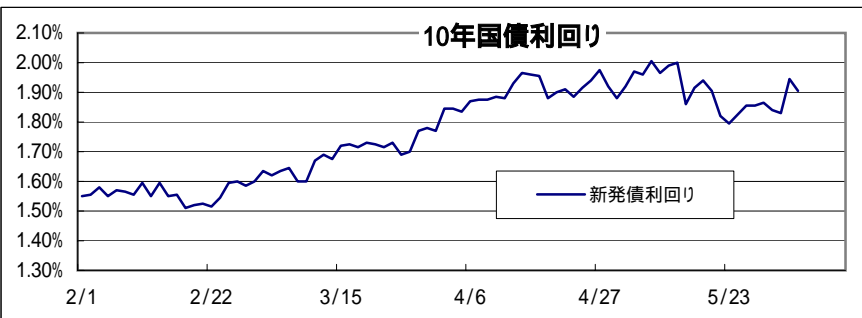
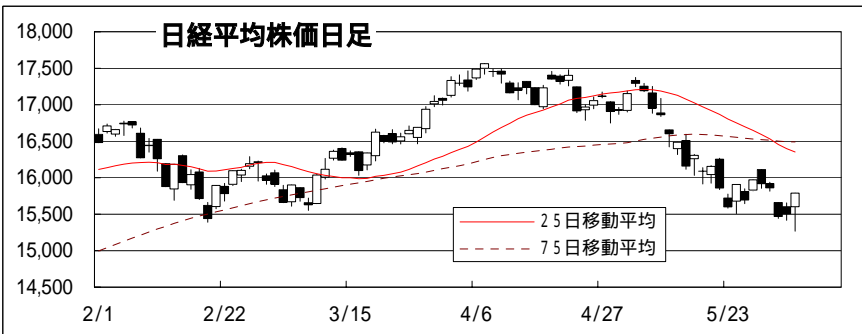
スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成18年6月5日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
東和銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
高崎信用金庫	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
郵便局	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%

TOB(株式公開買い付け)

阪急電鉄が阪神電鉄株式のTOBを行っています。
TOBは英語の「Take Over Bid」の略語で、日本語では「株式公開買い付け」と訳されます。
不特定多数の者から、ある会社(有価証券報告書を提出しなければならない会社)の株券等を買集めようとする者が、買付価格や買付けの期間等を公告する等、投資者保護の観点に立った所要の要件の下に、有価証券市場外において一定の株券等を買集める行為をいいます。
証券取引法に定められた制度で、買付者が有価証券報告書の提出会社である会社の経営権の変動につながるような大きな買付け等(「総株主の議決権の3分の1」を超える株式の買付け)を市場外でおこなう場合は、一部の例外を除いて、原則TOBによらなければならないとされています。



今週の株式相場見通し

先週の株式相場は、海外株安や村上ファンドの証取法違反疑惑などから大きく値を下げ、一時日経平均株価が年初来安値を割り込む場面もありました。
今週の株式相場は、先週の下げでほぼ下値は確認できたと思われるものの、新興市場の大幅下落の影響で個人投資家の評価損が大きいことや信用取引の投げ売りが続くことから、下値模索の展開が続くものと思います。為替相場が落ち着いてきたことで輸出関連株には買いが入りやすいものの、内需関連株は引き続き売り優勢で軟調な相場展開となりそうです。日経平均株価が16000円に接近すると戻り売りが、15500円割れでは値頃感からの買いがそれぞれ入ると考えられることから、15400~16000円程度の推移となりそうです。

今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、金利先高懸念が根強く1日の10年国債の入札が低調だったことから10年国債利回りが一時1.925%まで上昇しました。
今週の債券相場は、金利上昇懸念があるものの6月は比較的大量の国債償還があることから大きく売り込まれることはなさそうです。中短期債はほぼ利上げを織り込んだ水準であり小動きとなるものの、10年国債利回りはやや値動きの荒い値動きが続きそうです。
先週の為替相場は、新興国や資源国に投資していた資金がドルに戻る「質への逃避」の動きが強まり、ドルは比較的確りとした値動きとなりました。
今週の為替相場は、再び米国の景気失速とインフレ懸念との綱引きが続く中、ドルは対ユーロで弱含みとなり、つれて、対円でもやや弱い値動きとなりそうです。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。

本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものです。その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。